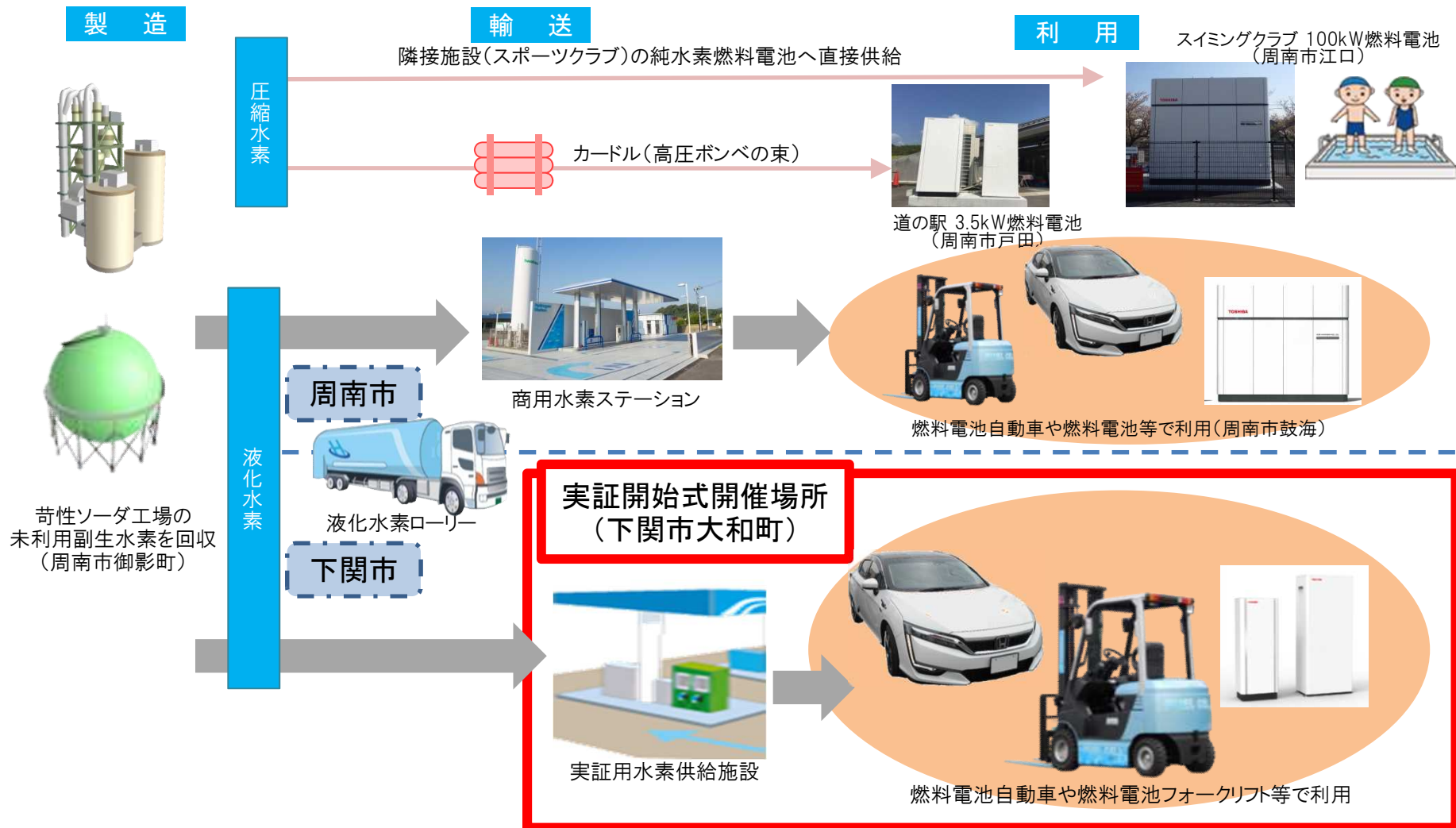


(参考) 苛性ソーダ由来の未利用な高純度副生水素を活用した地産地消・地域間連携モデルの構築 事業概要

- ・苛性ソーダ工場から発生する未利用副生水素を回収し、液化・圧縮等により輸送し、近隣や周辺地域の定置用燃料電池や燃料電池自動車等で利用する。
- ・苛性ソーダ工場の未利用副生水素を活用した水素サプライチェーンの実証と、全国への普及拡大に向けた課題を抽出する。

イメージ図



下関地域の実証概要

○ 液化水素の最適な広域輸送モデルの検証(苛性ソーダ工場の未利用副生水素を液化し、周南市から下関市へローリーで輸送)

○ 下関漁港に整備した実証用の水素供給施設を中心に様々な水素利用機器による実証を実施

- ・ 燃料電池自動車の公用車としての運用
- ・ 燃料電池フォークリフトの漁港内での運用
- ・ 実証用水素供給施設で発生したボイルオフガス(BOG)を回収し、漁港内の福利厚生施設の燃料電池へ供給

※ボイルオフガス(BOG): 貯槽内の低温の液化水素が、外気温との差から気化して発生するガス。

《イメージ図》

